

4. 地域公共交通を取り巻く課題

①コンパクトシティ+ネットワークの都市構造の形成に資する公共交通ネットワークが必要

- ・総合計画における「利便性が高く、人口減少時代に対応した都市基盤の整備」、さらには、都市計画マスタープランにおける「将来都市構造」及び「土地利用・市街地整備・交通体系の方針」などの上位計画の「都市の将来像」を見据えた公共交通ネットワーク（路線網と拠点）の検討が必要です。
- ・市内中心部を含めた市内全域での人口減少時代に対応した都市構造（コンパクト+ネットワーク）に向けた立地適正化計画の策定等を見据えて、都市計画上の市街地ゾーン（住居系用途地域エリア）における公共交通サービスの維持・向上が必要です。
- ・乗り継ぎが発生する五所川原駅やE L M等の交通結節点においては、安全・快適かつ分かりやすい公共交通利用の環境整備が必要です。

平成 26 年 5 月 21 日に交付された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律」により、市の総合計画や都市計画マスタープラン等のまちづくり計画と密接に関わり合いながら、公共交通体系を構築していくことが明示されました。

また、全国的に人口減少・少子高齢化が進む中で、高齢者でも安心できる快適な生活環境を実現することや、子育て世代などの若年層にも魅力的なまちにすること、財政面・経済面で持続可能な都市経営を可能にすることが大きな課題となっています。

このような背景から、平成 26 年（2014 年）に都市再生特別措置法が改正され、行政と住民や民間事業者が一体となってコンパクトなまちづくりに取り組んでいくため、市町村が立地適正化計画を策定することが可能になりました。

今後は、居住や都市の生活を支える機能の誘導によるコンパクトなまちづくりと地域交通の再編との連携により、『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』のまちづくりが求められています。

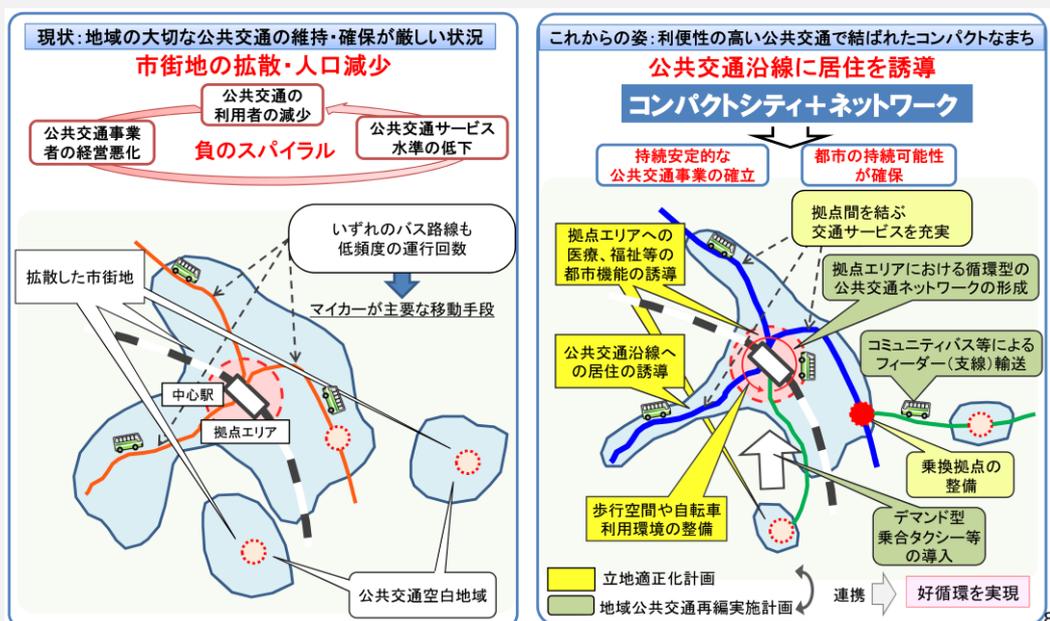


図 立地適正化計画における地域公共交通施策との連携イメージ

資料：国土交通省 立地適正化計画の手引き

②地域間（市内）及び広域移動の移動を支える公共交通ネットワークが必要

- ・市浦地域が飛び地となった形状である五所川原市の一体的な発展のため、五所川原・金木・市浦の3地域をつなぐ公共交通ネットワークの維持・強化が必要です。
- ・五所川原市には路線バスや行政連絡バスなどの複数の交通モードが存在し、市民の地域間移動において、利用できる交通モードが異なる場合、同じ地域間で料金負担に大きく差が生じる場合があるため、公平で適正な利用者負担を検討することが必要です。
- ・五所川原市は五所川原圏域の中心市として、周辺市町村から市内の広域都市機能（つがる総合病院、ELMなど）にアクセスできる公共交通ネットワークの検討が必要です。

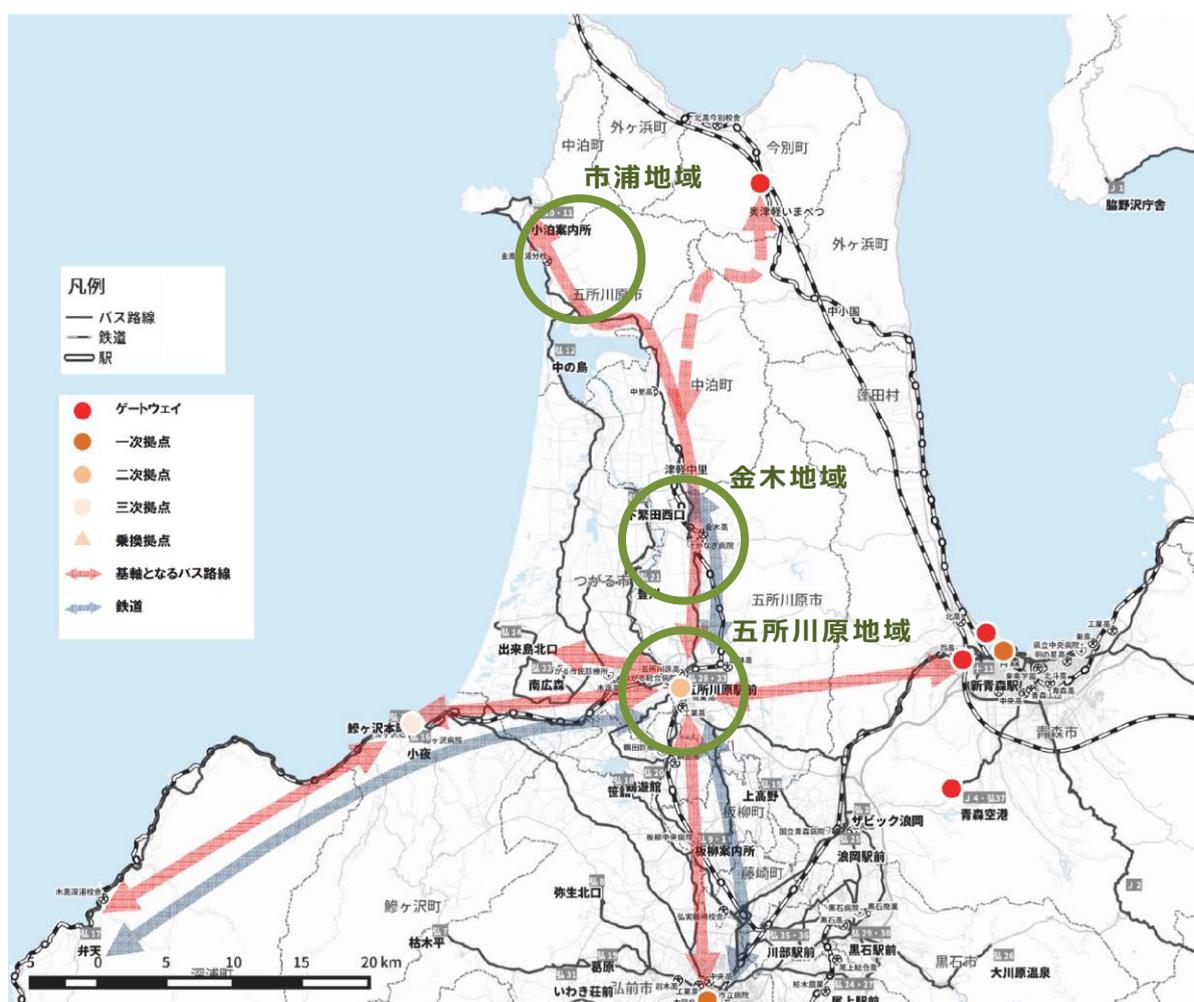


図 五所川原都市圏（西北圏域）における拠点および基幹ネットワーク図
（青森県地域公共交通網形成計画 ※五所川原・金木・市浦地域を加筆）

③ 利用実態や移動ニーズに対応した公共交通が必要

- ・ 車を利用できない高齢者や高校生等の移動制約者の日常生活における移動手段の確保が必要です。
- ・ 利用促進及び利便性向上の視点から、市内でも利用の多い施設や路線区間については、重点的にサービス向上を図っていく必要があります。
- ・ 利用が極端に少ない路線・区間については、運行効率化に向けた運行形態（交通モード）の転換や運行方法等の見直しの検討が必要です。
- ・ 高齢化・単身世帯化の進行や運転免許返納制度などを踏まえて、自分で移動手段を持たない市民が増えることが予想されるため、鉄道駅・バス停まで遠い交通空白地域における移動手段の確保が必要です。
- ・ また、誰もが利用しやすい公共交通体系形成が必要です。

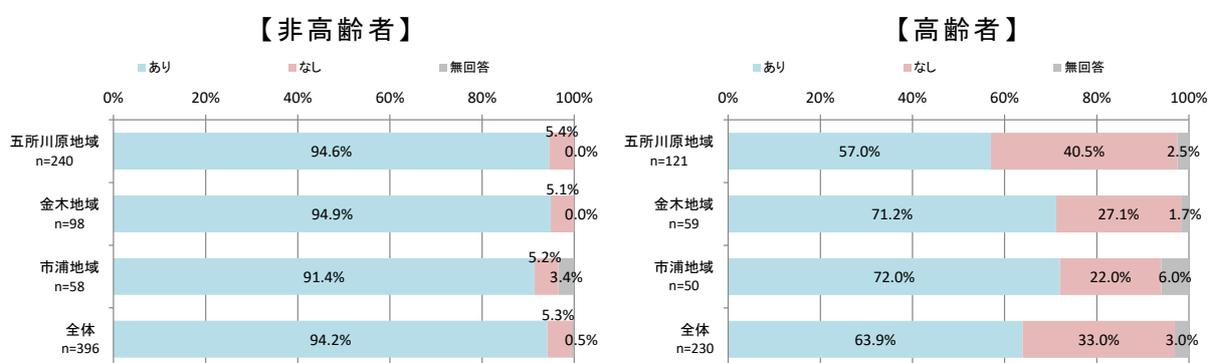


図 運転免許の有無 (市民アンケート調査結果)

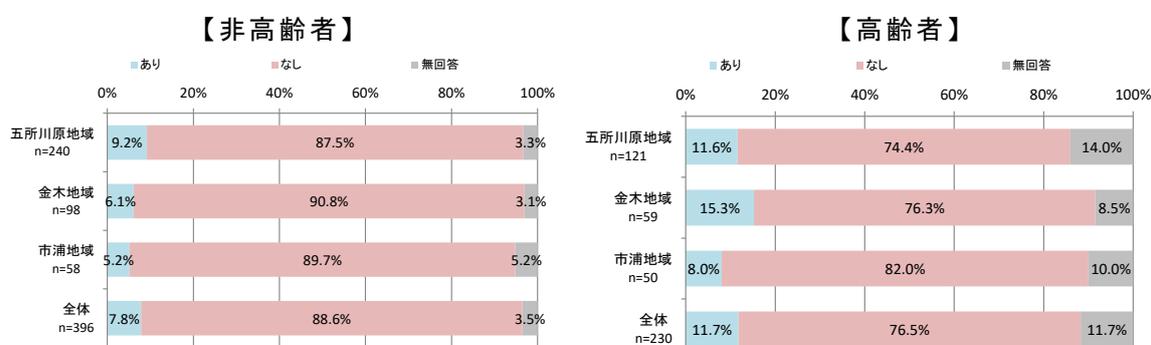


図 最近1ヶ月間での公共交通の利用有無 (市民アンケート調査結果)

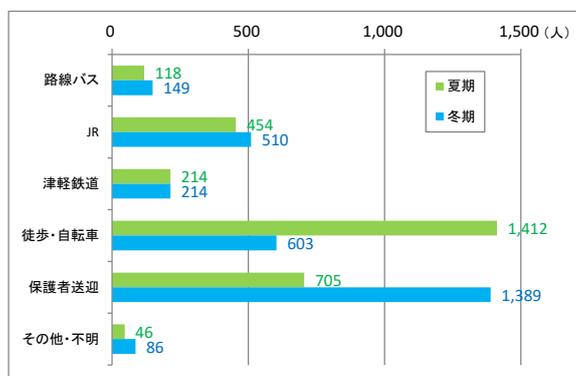
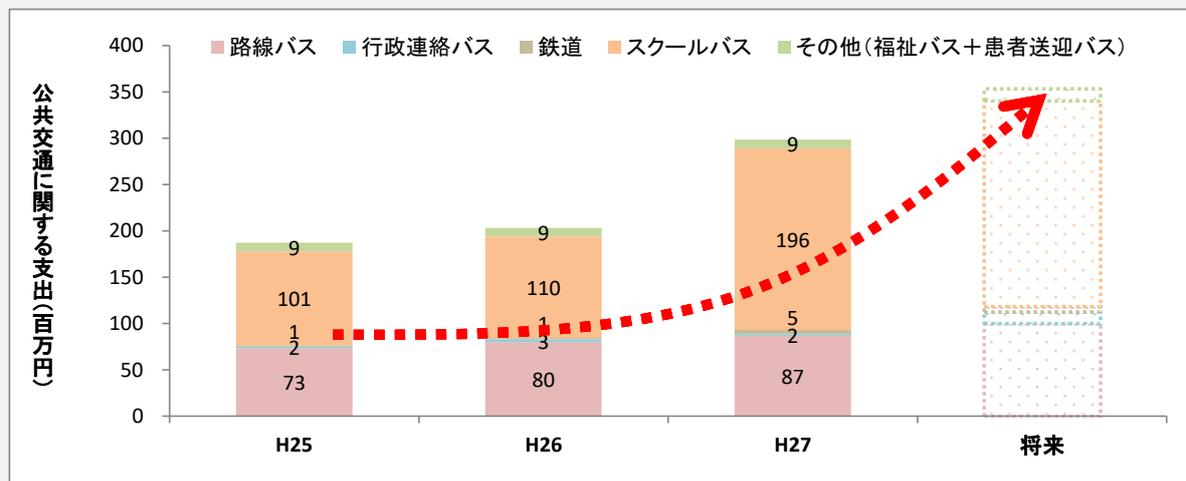


図 五所川原市内及び市外高等学校生徒の通学手段 (再掲 高校アンケート調査結果)

④持続可能な公共交通事業の確立が必要

- ・利用者減少に合わせて減便を行っていくと、全体的に薄く使いづらいネットワークになる恐れがあります。
- ・重複路線等の効率化による行政負担の軽減と、高利用区間への戦略的投資（サービス維持・向上）、空白エリア等における対応、という3つをセットにしたメリハリある対応が必要です。
- ・事業性向上のためには、公共交通の効果的な情報発信による利用促進に加え、生活利用以外の新たな需要開拓のために、観光分野と連携した仕組みづくりなどの利用促進が必要です。

市の財政負担は増額傾向であり、何も対策を講じないと、今後も増加が予測されます。複数のモード間の重複・競合がみられ、利用・収支の低迷などによる民間交通事業者の経営圧迫や行政負担の増大の要因の1つとなっています。



交通モード	支出金使用数値データ	
路線バス	生活交通対策補助金	各年決算書
行政連絡バス	行政連絡バス運行事業費	各年決算書
鉄道	津軽鉄道経営強化支援事業費 鉄道軌道安全輸送設備等整備事業費	各年決算書
スクールバス	小学校通学バス運行事業費 中学校通学バス運行事業費	各年決算書
その他	福祉バス運行事業費 患者送迎バス運行事業費	各年決算書

図 五所川原市の公共交通等維持に関する財政負担

5. 計画の基本理念・方針及び目標

5-1. 計画の基本理念・基本方針

五所川原市における「将来のまちづくりの方向性」や公共交通を取り巻く現状・課題などを踏まえ、本計画の基本理念と基本方針等を以下のとおり設定します。

【基本理念】

公共交通を軸とした『活力ある・明るく住みよい豊かなまち』づくり

【基本方針】

基本方針 1 日常生活を支える公共交通の骨格軸の形成

基本方針 2 小規模需要エリアにおける足の確保

基本方針 3 まちづくりと連携した公共交通網の構築

基本方針 4 多様な主体間の連携・調整による持続可能な公共交通の構築

【将来ネットワーク形成の考え方】

①市内各地域の拠点間を結ぶ公共交通網（骨格軸）の構築

・都市の将来像を見据えた公共交通網を構築するため、都市計画マスタープランで位置付けている都市拠点（五所川原中心部）や生活拠点（金木・市浦の総合支所等）、観光交流拠点（金木中心部、道の駅等）などを結ぶ「南北軸」「中心軸」といった骨格軸の形成をめざします。

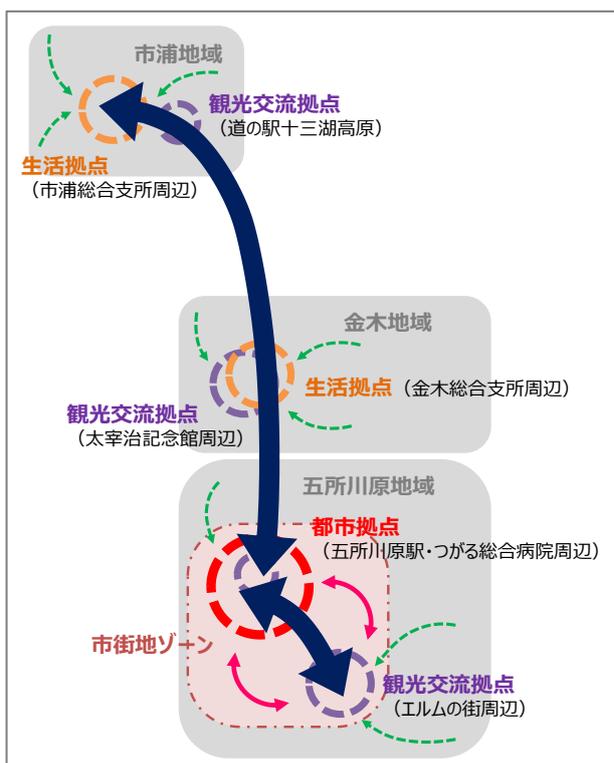
・都市計画と公共交通の一体的取組により、骨格軸沿線における都市機能や居住の誘導を促進するような「交通まちづくり」の推進をめざします。

②骨格軸上の交通拠点の設定

・骨格軸上に交通拠点を設定し、骨格軸（南北軸・中心軸・市街地路線）同士や、骨格軸と広域交通、地域内交通との乗継利便性の向上を図ります。

③小さな交通による最低限の移動の確保（地域内交通）

・骨格軸等の鉄道・路線バス沿線から離れたエリアにおいては、住宅地・集落から骨格軸上の交通拠点までの交通手段（地域内交通）を確保します。



将来ネットワーク形成のイメージ

5-2. 計画の目標

本計画においてめざすべき目標について、以下のとおり設定します。

【基本方針1 日常生活を支える公共交通の骨格軸の形成】

目標1-①	市内公共交通の「南北軸」の形成
<ul style="list-style-type: none">五所川原・金木・市浦の3地域をつなぐ公共交通を、市の公共交通の骨格となる重要な軸（骨格軸）である「南北軸」と位置付けて、その維持・強化を図ります。	
目標1-②	「中心軸」の形成及び中心部における公共交通サービスの向上
<ul style="list-style-type: none">中心部における広域都市機能をつなぐ公共交通を、市の公共交通の骨格となる重要な軸（骨格軸）である「中心軸」と位置付けて、その効率的かつ利便性の高いサービス提供をめざします。都市計画上の市街地ゾーン（住居系用途地域エリア）における利便性の高い公共交通の確保・維持をめざします。	
目標1-③	「広域交通」の維持・改善
<ul style="list-style-type: none">五所川原圏域の中心市として、周辺市町村から市内の広域都市機能にアクセスできる公共交通ネットワークの構築をめざします。	

【基本方針2 小規模需要エリアにおける足の確保】

目標2-①	利用実態や需要規模に応じた市内路線の維持
<ul style="list-style-type: none">利用が少なく事業性の低い市内バス路線について、運行経路・本数・ダイヤ等の見直しや運行形態・交通モードの変更なども視野に入れて、効率的かつ利用しやすい路線への再編を検討します。	
目標2-②	「小さな交通」による移動の確保
<ul style="list-style-type: none">空白エリア・路線バス代替の交通手段を検討します。小さな交通の導入にあたっては、交通事業者と行政だけでなく、地域協働による交通手段確保に向けて、新たな制度・仕組みの構築を検討します。	

【基本方針3 まちづくりと連携した公共交通網の構築】

目標3-①	地域内外の交流を促進し、地域活性化や観光振興に貢献
<ul style="list-style-type: none"> ・市としての一体化の促進と地域間の交流と連携の活性化を図るため、市内の各地域における拠点（生活拠点、観光交流拠点等）と中心部の都市拠点を結ぶ公共交通網の整備を推進します。 	
目標3-②	交通拠点の設定と乗継利便性等の向上
<ul style="list-style-type: none"> ・交通拠点での安全・快適かつ分かりやすい環境整備や、接続ダイヤの改善など、乗り継ぎしやすい交通結節点としての機能の強化を図ります。 ・交通拠点に人が集まり、賑わいを創出する機能の強化に貢献します。 	

【基本方針4 多様な主体間の連携・調整による持続可能な公共交通の構築】

目標4-①	多様な交通モードの統合・整理による持続可能な公共交通網の構築
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道や路線バス等の既存資源を活かしつつ、重複する他交通モードとの調整による効率化や鉄道・バスではサービス提供が困難な小規模需要エリアなどについて地域の関係者が協働・連携しながら確保・維持に向けた取組やタクシー活用などといった多様な交通モードを含めた持続可能な公共交通網を構築します。 	
目標4-②	みんなで支える公共交通の構築
<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者が運行・運営する地域公共交通を行政（国・県・市町村）の補助のみによって支えるのではなく、公共交通沿線の施設や関係者の協力を得ながら持続性を高めていく取組を検討します。 ・情報発信についても、交通事業者や行政のみで行うのではなく、地域（住民・学校・病院等）や企業（職場・商業施設等）などが連携し、継続的に公共交通の情報発信や利用促進を行える仕組みを構築します。 	
目標4-③	環境に優しく、誰もが利用しやすい交通の形成
<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の小さい交通環境の実現に向けて、自動車利用から公共交通利用への転換や市民の環境配慮行動の促進などに加えて、次世代環境対応車の普及促進などによる地域交通のグリーン化をめざします。 ・高齢者をはじめ誰もが利用しやすい交通環境の実現に向けて、低床バスやUD（ユニバーサルデザイン）タクシー等の普及促進を検討します。 	

5-3. 地域公共交通網の将来イメージ

(1) 路線の階層化

市内の地域公共交通網の階層化を行い、戦略的にサービス向上とPRを図る「骨格軸（南北軸・中心軸・市街地路線）」、広域的な移動を支える「広域交通」、地域内の移動を支える「地域内交通」を定めて、地域公共交通ネットワークの再構築を図ります。

【路線網の現況】

路線階層		路線名
鉄道		JR 五能線 津軽鉄道
路線バス	広域路線	五所川原～弘前線 五所川原～青森線 五所川原～鶴田線（廻堰経由） 五所川原～豊川線 五所川原～稲垣線（再賀経由） 五所川原～出来島線 五所川原～南広森線（越水経由） 五所川原～小泊線（金木・中里経由） 五所川原～小泊線（十三経由） 五所川原～鱒ヶ沢線（木造経由） 広田団地線
	五所川原地域	藻川線（種井経由・高瀬経由） 高野環状線（北廻り線・南廻り線） 飯詰能開短大環状線（北廻り線・南廻り線）
	金木地域	金木線
	市街地エリア	ELM120円バス
その他		五所川原市行政連絡バス（五所川原～金木～市浦） スクールバス 川倉の湯っこバス 患者送迎バス しーうらんど送迎バス 薬局バス

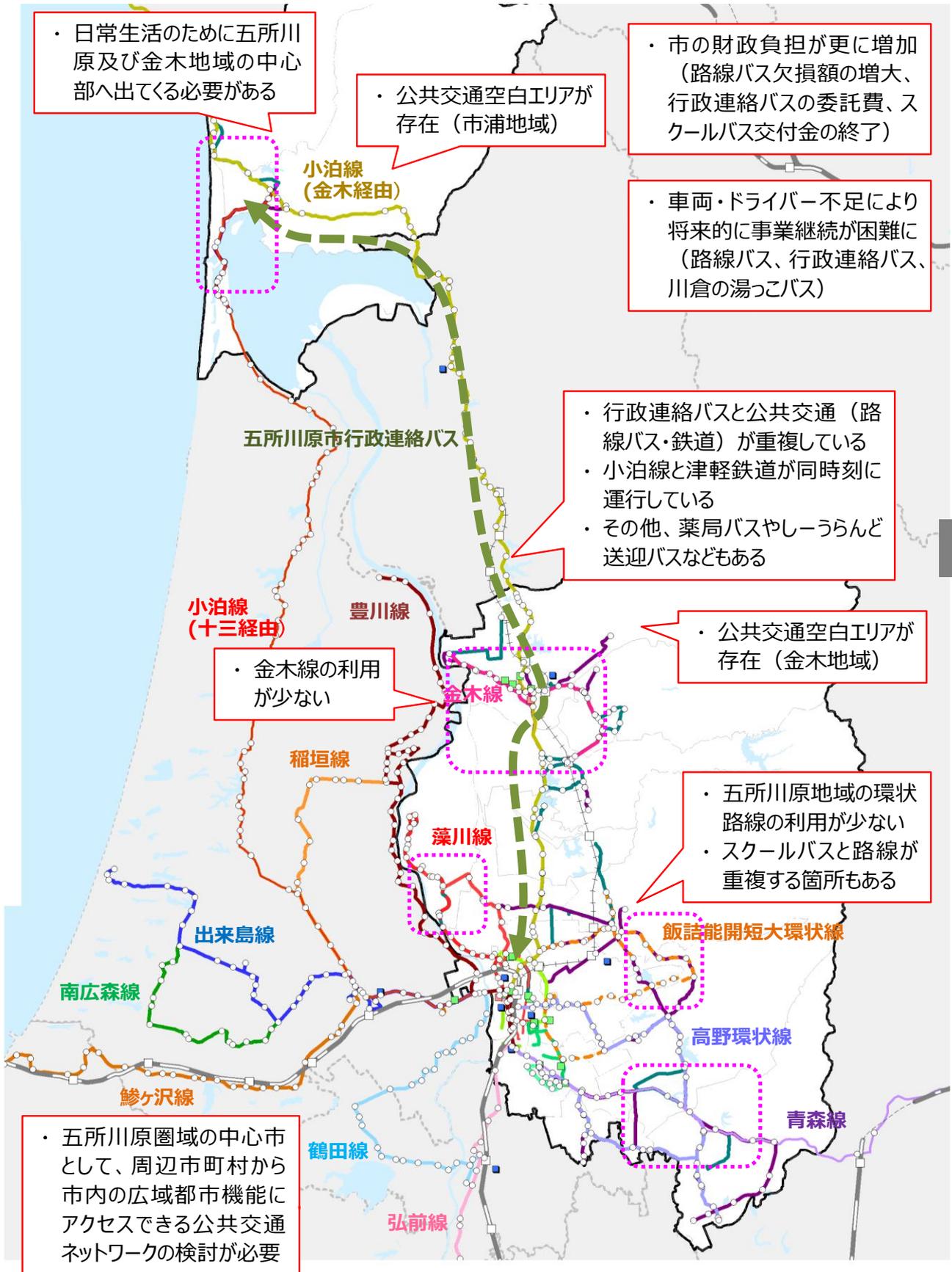
【路線網の階層化】

路線階層		役割	交通モード	
広域交通		<ul style="list-style-type: none"> 広域的な移動（主に日常生活）を支える路線 中心拠点で中心軸に結節 	JR 五能線 路線バス（弘前線、青森線、鶴田線、豊川線、稲垣線、出来島線、南広森線、小泊線（金木・中里経由）、小泊線（十三経由）、鯨ヶ沢線等）	
骨格軸	南北軸	<ul style="list-style-type: none"> 市内公共交通の南北の骨格となる路線 五所川原・金木・市浦の3地域間の移動（主に日常生活）を支える路線 	津軽鉄道 路線バス（小泊線）	
	中心軸	<ul style="list-style-type: none"> 市内各地域及び圏域からの目的地となる広域都市機能同士をつなぎ、市内公共交通の中心部における骨格となる路線 	路線バス（ELM120円バス）	
	市街地路線	<ul style="list-style-type: none"> 市街地ゾーン内の住宅地から中心拠点までの移動を支える路線 	路線バス（ELM120円バス）	
地域内交通		<ul style="list-style-type: none"> 市内各地域における地域内移動を支えるとともに、広域交通や骨格軸に接続して、日常生活の移動を確保する路線 金木・市浦は地域拠点で南北軸に、五所川原は中心拠点で中心軸に結節 	五所川原	路線バス、スクールバス、乗合タクシー等
			金木	スクールバス、乗合タクシー等
			市浦	スクールバス、乗合タクシー等

【交通拠点】

	拠点の機能	交通拠点
中心拠点	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能が集積する中心部において、人々の移動の主要目的地となる都市・交流拠点 鉄道や骨格軸、広域交通との乗継拠点（ターミナル拠点） 	五所川原駅
		ELM
		つがる総合病院
地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> 地域内交通と広域交通・南北軸との乗継拠点 単に乗継拠点であるだけでなく、地域内の生活・交流機能を合わせ持つ生活拠点 	五所川原駅
		金木総合支所
		市浦総合支所

【地域公共交通の現況・課題図（市全域）】



【地域公共交通網の将来イメージ（市全域）】

